

北の海と
生きる

北海道で漁師に なりたかったら



生きがいと幸せの予感がしたら…

漁業就業支援協議会とは？

ようこそ、『北海道漁業就業支援協議会』へ。ここは――

「漁師になりたい」「漁師になる手立てを教えてほしい」という求職者の方々のために――また

「家業や将来の浜の担い手となる若者を探している」漁師や漁協関係者の方々のために――

相談窓口として設けられ、実際に次のステップの漁業就業が円満に進むよう支援活動を行っている機関です。

漁業の道に進みたい理由？

最近、漁業の道に進みたいという人たちの、問い合わせが増えています。どうして漁業の道を選ぶのか、理由を尋ねると――

「現在失業中。勤め口を探しているが、都会では自分を生かせる仕事がないかなが見つからない」

「いつ会社がなくなるか、会社からいつ辞めろと言われるか常に不安。定年を考えなくてもいい漁師に転職したい」

「雇用期間が切れるので、以前から興味のある漁業にこの機会に向かうかなあと考えて」

「小さいときに釣に行つて楽しかったので、この際漁業をやってみようかと」等々、漁業という職業選択の動機は色々です。



チャレンジ精神と忍耐が必要

様々な事情や将来に対する考え方をお聴きし、性格や適性などに配慮しながら生涯をゆだねる地域や漁業種類、指導者として受け入れてくれる漁師の方々の思い描きながら相談に及び、また支援策を考えていくのが私たちの仕事です。

漁業を将来の職として都会から多くの人が求めて来る現象は、以前

にもありました。バブル景気崩壊後の平成10年前後のことで、国内を襲った複合不況と呼ばれた就職氷河期がそれです。

今、当時と違うのは、『物づくり日本』を自負していた我が国が、いざなみ景気と呼ばれた平成14年以降に生産構造改革を加速させて、生産の場を積極的に海外移転し、社会構造や雇用の仕組みも変えてしまった後にアメリカ発の世界同時不況の津波が襲来しましたから、時間が経過しても弱体化した国力ではなかなか景気や経済の浮揚につながらない状態が続いていることです。

バブル景気やいざなみ景気に就職した年代は、自力で財を獲得した人もありましたが、社会全体が潤っていて富裕感を味わっていたので、勞せず豊かだったのではないのでしょうか。ですから就職世代間で、『働く』『仕事をする』ことに對する感覚に相違があります。忍耐に欠け、生活や仕事に對する工夫やチャレンジしようとする気力も、就職氷河期を味わった若者たちより劣ると感ずる人たちが多いのではないのでしょうか。

じっくり相談に乗ります

北海道で漁師になりたいという人のために、研修中の新米漁師を紹介する冊子を平成20年にパート1としてつくりました。翌21年には、漁業現場でボランティア的に研修生を受け入れてくれた五人の漁師の親方を紹介したパート2を出しました。

当時の新米漁師は修業の時を終えて、自立した人、親方に代わって経営者として歩み出した人、後継者としてさらに親方の技術を継承するため修業を続けている人など、『漁師』の道を着実に歩み出し家庭を築いている人もいます。しかし、なかには入口でつまずき、あるいは家庭の事情で漁師になることを諦めた人もいます。これまで支援協議会の戸をたたき『どうしたら漁師になれるのか』と問いかけられた素朴な質問などにお応えし、また漁業という職業を認識していただくためにこのパート3をつくりました。

漁師という職業に、ますます魅力を感じたら、支援協議会に連絡してみてください。じっくりとご相談に乗ります。

どうすれば漁師になれる？

世襲が当然であった漁村も、近年は外から後継者を求めようと考えるようになりましした。でも受入態勢を整えるのは大変なことです。都会生活しか知らず、しかも全く漁業経験のない人が、厳しい自然環境や漁師の仕事に馴染めるのか等々あなたの経歴とともに、受入側にも心配事がたくさんあります。

漁業技術以前の問題が山積しています。

年々高齢化が進み廃業者が増えていく中、何とか後継者を育てていかなければならない状況にある漁業界ではありますが、「どうすれば漁師になれるの？」という、あなたの質問に答えながら、漁村生活、そして漁業について紹介します。

漁村の受け入れ態勢

住宅環境について

漁村の住居数は、住民世帯の数しかないと言っても過言ではありません。親から独立するときは町内の公営住宅に入居を求めているのが通例です。下水道も整備されてきましたので、老朽住宅でない限り上下水道は整っています。

では、外から漁師を目指す人たちはどうするかという問題です。漁師の親方との間であなたの受け入れがまとまれば①親方の家で寝食を共にするか②番屋と呼ばれる作業場兼宿舍で寝起きをするか③空きの公営住宅に入居するか④民間の空き住宅を賃貸するか⑤方法があります。漁業の未経験者が修業をしながら生計を確保するには、漁協または

親方しか頼るところはありません。親方も無償か低家賃の住宅の確保に心血を注ぎます。浜の生活に欠かせない情報や従業員が生計の場の確保など円満な地域調整が図られるには、日頃の周囲の人たちとの付き合いが大切です。

生計について

住居の心配は解決されても、次は生活費です。まず、都会と漁村とでは、生活コストが格段に違うことを理解してください。

都会では2LDKの家賃が七〜八万円以上であつたら、漁村ではそれ以下で借りられます。民家で二〜三万円程度のもので、また公営住宅は所得に応じて家賃が決められますから

新米漁師では二万円少々でしょう。

賄いと言つて水揚げした魚介類を親方が分け与えてくれますし、自分で操業できるようになれば自ら確保することができ、自給自足に近い状態ですから食費は安価で済みます。

衣類は海上でも陸上でも汚れを覚悟の職業で、動きやすさが優先されますので、ジャージや作業衣に合羽と長靴スタイルが普通です。都会のように周囲の目を気にすることなく、清潔を心がければ衣料費に必要以上のお金をかけることはありません。

給料も気になるところでしょうが、半人前ともつかない新米に給料を支払う親方は大変な度量の持ち主です。親方や同僚の世話を受けても、彼らにとってプラスとなるまでには相当な歳月を要するあなたに給料を支払



新米漁師の家族に役場が住宅等を用意してくれるケースもある

うのです。生活ができるようにと十五万〜十八万円程度くれる給料は、決して少ない額とは思えません。早く「人前」と認められることが第一と、仕事をマスターすることに励んでください。

素直であること、周囲の人たちとの交流を大切にすること、最低限での生活が実は最も人間らしい「人を大切にすること」を実感し、立ち返ることが出来る近道の職業でもあります。



漁師のプロ意識とは……？

気象予報士よりプロ

大海では漁船などは木の葉以下のものですから、漁師は否応なしに海と漁船に我が命を委ねます。それ故に気象変化には敏感で、漁師の天候予測は気象予報士より正確です。風や潮流、雲の変化を見て天候を予測し、出漁時期や帰港のタイミングを決定します。

早朝、浜沿いの道を車で進んでいる時に、漁師が空や沖合をじっと見つめている光景を目にすることがよくあります。日を見ている姿です。夕刻には翌日の仕事の可否を決めています。

現代では気象衛星からのデータが

高性能となり、地球の気流変化や潮流変化が情報として得やすくなり

したから、長期予測もするなど仕事のスケジュールも科学的に行っている漁師は大勢います。その知恵を漁師同士が交換し合い、さらに磨きあっているのも、互いに海に命を委ねざるを得ない職業人であるからでしょう。

漁業技術は自己開発

漁業技術は、親のやり方を見て身につけた漁師ばかりと言いつつても過言ではありません。子どもの頃から親と一緒に船に乗り、親の仕事ぶりを通して見よう見まねで会得してきた業です。漁業機器は高度化され、作業は相当

な省力化が図

られました。ソナーで魚群を

探知できます



ので漁獲効率は大きく改善されました。航海機器も言わずもなですが、電気系統の故障となると計器頼りの漁師はお手上げです。そのような時は、親から受け継いだ技術は大きな助けになります。

漁具にしても、どんなに高度に機械化されても、魚の生態や海底地形、潮流等に合わせて自己開発した道具や技術に勝るものはないと言えるでしょう。漁師仲間でも肝心なところは秘密です。何日も何年もかけて自ら開発した道具は公表しないのです。そこが漁師のプロ意識です。同じ大きさの船で燃料を使い、同じ網や道具を使つて同じ漁場で操業しているのに漁獲に差が生ずるのは普通にあることですが、彼らはどこかで人知れず工夫や改良を行つて競い合っているのです。

「見て覚える」が新米の基本

漁師志望の人たちは「親方の仕事を見て覚えろ」と、よく教えられています。この努力は新米漁師となり、や

がて親方と呼ばれるプロの漁師になるための試練と教練の場であり、大切な時間であると考えてください。このようなことは、経済成長期の余裕のあった時代にはサラリーマンも同様でしたが、現代の企業運営では社員を養成しようとしないうし、先輩・上司から教えるを得る機会も少ないでしょう。「見て覚える」ことがとても手な人が多くなっています。

人も動物も「真似る」ことで自らを進化させてきました。特に、人は道具を造ることを使うことを真似しながら自己開発してきました。「見て覚えろ」は、プロである漁師のやり方を「真似して自分のものにしろ」と職業意識の芽生えを促している漁師流の教え方と受け止め、親方独特の業を伝授継承させようとしてくれていることなのだと分かってください。漁師の業は、理屈が先ではなく、五感を磨き覚えるものだからです。そして漁師は自然に対しても人に対しても謙虚で誠実であることを大切にし、家族にも後継者にもこのことを伝え継承してほしいと望んでいます。あなたが、これを素直に実践できれば、漁師への道は近いといえます。



都会人からの離脱を…

仕事の時間は自然が決める

漁業就業を求める人からの質問で「番多いのは「勤務時間」です。

早朝から働くことは薄々理解できても8時間労働に馴れている人々には、漁師の生活を体験するほど辛さや厳しさを受け入れ難いと感じるのでしよう。

「勤務時間」とは言いません。働き始める時間は漁業種類や季節によつて異なります。魚介類の生態に合わせて操業しますし、養殖漁業であれば水温変動に注意し生物生態に仕事の時間を合わせます。

主な仕事場は海上ですから、農業や林業のように風雨の避け場はないので、安全性を最重視して操業します。海が荒れて出漁できなくなると生活の糧がなくなるので、操業できる気象条件の時は全生活時間を注ぎます。休日も8時間労働も無くなるのです。海が時化ればおさまるまで何日も「待ち」の状態が続きます。

また、漁獲してから出荷時間や陸の仕事を考えて操業時間を決めています。

コンブ漁業の場合

コンブ漁業を例にとると、春から初夏にかけて日照時間が長くなると光合成が活発化し成長が著しく進みます。初夏から真夏にかけて製品となるサイズに成長したコンブを採取し、陸で天日干しにします。生産コストもかかりませんし天日干しは何よりも上等な製品に仕上がります。それでも太陽が傾きだす前には干し上げて取り込まなければならぬので、早朝から人海戦術で作業をします。ガスや霧がかかると干せない時もあり、晴天の時はひたすら水揚げし天日干しを続けます。機械乾燥の方法も普及していますが、油や施設のコストを考えると天然乾燥にはかからないません。

ホタテ養殖漁業の場合

ホタテ養殖漁業もそうです。稚貝を籠などに収容して成長させ成貝として出荷するには、養殖施設を海域の水温変化に応じて適当な水深に維持し、成長する過程で過密とならないよう分散作業を行い、また成長の妨げとなる付着物を取り除く作業も必要となります。

海水から取り上げている時間が短いほど、海水温が適温であるほど貝にダメージを与えずに済みますから、夏場は真夜中から沖での作業です。日中は翌日の準備のため陸での作業が続きます。

このような手間を惜しむと、出荷のときに期待した生産につながら

ないこととなります。「働いた分だけ収入になる」と言われる由縁がここにあります。しかも、海上が時化るとこの作業は延び延びとなり、その後の作業に影響がでるため、気象情報と仕事の時間はシビアに考えて日々を過ごしています。

浜は都会と半日ずれた生活

「勤務時間」ではなく「仕事の時間」は、自然が主導権を持っています。

朝が早いので都会生活のように夜遅くまで起きていることは出来ません。都会の家族団らんの時刻には就寝の時間となります。浜は都会生活と半日ずれた生活と理解するといでしょう。

北海道の漁業は、冬は漁閑期となります。この時期は海開けと言われる春の操業開始のために、傷んだ漁具の修理や漁船の手入れ、道具造りなどを行って過ごします。また、家族団らんや体調管理など心身のリフレッシュに用いています。また、冬操業の漁家の手伝いなど、互いの仕事を補い合い、浜の絆を強めていきます。自己研鑽もこの時期に集中して行うのも漁師の生活の一部です。



漁業就業の情報はどこに？

ハローワークに情報はない

求職者の人から電話があると、全員が「ハローワークに行っても漁業に関する求人情報が無い。漁業について教えて欲しくても、職員で知識のある人は全くない。インターネットで調べてもらいたい。漁業の就業支援協議会が取り扱っているらしいと紹介された」と、開口二番に言います。

次に尋ねられるのは「漁業に就職したいのですが、募集している会社はありますか」です。

漁業でハローワークに求人登録をするのは、季節的に雇い入れを必要とする漁業でしょう。一年を通して家族と熟練の従業員で、ほとんどの仕事を賄っています。ですから仕事が集まる時期に必要な迫られた漁家だけが、ハローワークに求人要請を行うケースがほとんどで、あなたが聞きたい情報が無く、職員も漁業になじみがないのは当然と言えば当然なのです。

地域で支える漁業形態の変化

日帰り操業を生業とする沿岸漁業は、もともと家業を長男が継承するという世襲で行われてきました。

時代の変化により親も職業選択は本人の意思に委ねるようになりまして、たので、本人の素質や意思が大切にされています。40歳代、50歳代の漁師は、自分が漁師の道を歩まれ苦労をしてきた経験から、息子には将来を自由に選択させている家庭が多くあります。進学や就職で若者が浜を離れていく傾向は、随分以前から見られています。

不足している労働力は、互いに浜で補い合います。浜で生活している人は商店主であっても郵便局員であっても役場の職員であっても、仕事の前後は手伝いに浜に向かいます。人手がいよいよ足りない時は、漁業協同組合が周辺地域や本州などの縁故者を頼って補ってくれていました。

それが近年、漁師の世界も高齢化が進み、若者に自由を認めていたので、浜の担い手となる後継者が本当に不足していることに気づいたのです。それでも資源が豊富なオホーツクや太平洋沿岸の地域は、後継者が十分間に合う状態ですが、漁業資源が不足気味な日本海から噴火湾にかけてはいよいよ後継者不足となるであろうと心配されています。

漁業就業支援協議会の役割

北海道の一部の地域では、外から人材を受け入れなければならない状況になりました。

しかし、受け入れ環境を整えなければ人は来てくれません。外の人のニーズに応える必要があります。そのことを浜に理解してもらうための活動を、水産系統団体で組織する北海道漁業就業支援協議会が行っています。また、この支援協議会は漁業就業希望者の相談窓口として、漁業紹介とともに相談者と浜の双方を繋ぐ役割もしています。

北海道の漁業の多くは「自立型」で、求職者を雇用することはあまりありません。将来は自立させる考えで受け入れます。「雇用型」は、季節的なものか乗組員ですから従事者で、周年・終日雇用ではありませんから、生計維持のため何がしかの副業を必要とするのが通例です。親方のところで仕事がない時は、他の漁業を手伝って生計を立てているケースが多くあります。

このような浜の情報、漁業の実態・実情を伝え、就業希望者の人たちが、

漁業という職業選択に誤りがなかったと希望を持てるように支援するのが、私たち協議会の役割なのです。

就業までの流れ

漁協 船主等

・人手不足だな
・新人漁師を募集したい
・やる気のある人いるのかな

漁師の仕事に関心のある人

・漁師として働きたい
・どうすれば漁師になれるんだらう
・漁師の仕事って？
・漁師に向いているかな

フェア出展

フェア来場

漁業就業支援フェア

「担い手を確保したい漁協や漁業者、会社と漁師になりたい人の面談の場」

「道、漁業研修所、支援協議会による相談コーナー」北海道の漁業、支援制度の説明や種々の質問に対応するコーナーです」

「漁業者入門研修／北海道での漁業就業を希望する人を対象とした体験型短期研修の紹介」

現地での研修

「漁業 漁村生活の経験、基本的な漁ろう技術の習得期間」

■オリエンテーション

■実践研修（6ヶ月間、最長12ヶ月）

研修地で漁業就業！



漁師への近道です

就業相談とは

あなたが漁業就業支援協議会に就業の相談をすると、年齢や職歴、持っている資格などをお聞きます。

未婚か既婚か、家族構成はどうなのかも重要で、受入側が準備する住居や生計費の目安のため必要な事項です。

北海道では、自動車の運転免許は就業の必須条件となります。

どうして漁業という職業を選択したのか、就業理由も問います。

「職がないから漁業でも」と考えている人は長続きしませんし、浜の人たちも本気に就業する気持ちはないと受け取ります。

「海が好きだから」は大切なことです。海が好きなのは、漁師の第一条件です。しかも、ただ「何となく」ではなく、より具体的な「思い」のあることが大切です。

「何をしたいのか」も尋ねます。どこまで漁業を知り、漁師にかけの期待や夢を、どこまで本気で考えているのか知るためです。求職者のありのままを受け入れる浜の人に知ってもらうことと、浜を知ることが最も大切で質問しますが、そうした会話を交わしながら相談員は、あなたに合った

漁業種類や地域、指導者となる親方を思い描いているのです。

漁業支援制度の活用

漁業就業を希望する人には国や道が支援する制度があり、北海道では漁業就業支援協議会が担当しています。

前述した個別の就業相談は、電話や協議会を訪れる人たちに行われているものですが、協議会のホームページには季節雇用などの求人情報も掲載して多くの情報を発信しています。また、市町村の受入れや支援制度にもアクセスできるように工夫しています。

さらに、将来の浜の担い手を育成しようとする漁業協同組合や漁師に協力し、札幌市、函館市、旭川市など道内の各地域で漁協や漁師と就業希望者が直接面談する場「漁業就業支援フェア」を提供しています。

この面談に参加し受け入れ側と合意すると、六カ月から二年間の漁業現場での実践研修を通して、漁業就業を見極める機会を提供、支援しています。ガイドブックのパート1に登場した人はその一部で、日本海地域を主体に四十名余の人が浜に入り研修しています。

実践研修が進むと、本格的に漁獲したり、採取したり、漁業技術を身につけなければなりません。そうなる前に漁船の操船資格を取得しなければなりません。五トン以上の漁船では海上特殊無線の資格もなければ操船できません。これらの資格取得に必要な経費についても支援しています。具体的には受講料と教材費ですが、受講場所が遠距離であれば移動にかかる費用も負担しています。これも親方が就業の見込みがあると認め、漁協も将来浜の担い手になると推薦した人に限られますが、本人のやる気と努力が周囲に認められると、この道が開けてきます。

もう一つは、北海道立漁業研修所が開設している五日間の「漁業入門研修」があります。漁業を知らない漁業就業希望者を対象に、ロープワークや網繕いなどの初歩的な漁業技術が研修できます。漁業就業支援協議会で紹介します。

いずれにしても、すべては、漁師になろうと決めた「あなたの意気」にかかっています。漁業就業支援協議会に相談することは浜に縁のない人が漁師になるためには、最も確実な近道です。



漁業入門研修



フェアで面談するのが漁師への近道

漁師への道をたどる

大切な自覚と協調性

ここまでのことは、漁師になるための入口の部分です。親方と一緒に仕事を一年あまりしていても、まだまだ「漁師の仕事を手伝っている」段階^{レベル}であることを自覚してください。

漁業を行うには、地域の漁業協同組合の組合員となり漁業権を得ることが必要です。そのためには周囲の漁師仲間に受け入れられ、一人前に漁業経営と資源管理を任せられると認められなければなりません。親方の指導に反論したり、技術習得がなかなか進まない状態では自立をさせてもらえません。

漁業と地域社会は、相互扶助で成り立っています。漁労作業中に発生した事故や故障には、同僚が自分の仕事を投げ打って助けに来てくれますし、海難事故などは何日も仕事を休んで捜索にあたります。すべてボランティアなのです。このような協調性は重要で、海に命をあずけている海の男ならではの心情です。親方との協調性が重要視される理由もそれにつながります。



生きがいのある人生を拓く

技術習得は漁業経営そのものに影響します。技術が不十分だと同僚漁師が漁獲している資源を分け与えたのを無駄にし、結果として漁協全体の生産が低下します。このことは、組合員みんなの生活に影響を及ぼします。ですから、しっかりと技術と協調性と責任感を見極めて組合員資格と漁業権を与えるのです。

組合員になる前に、準組合員として様子を見られます。親方が推薦するのですが、周囲が修業の姿を見ていて、半人前程度と評価すると成長するまで待たされます。日頃の仕事ぶりと周囲への協調性・協力姿勢がこの時に評価されるのです。

毎日毎日が単純で、重労働が続くかもしれません。しかし、浜の慣習に従って義務を果たしていかなければなりません。浜の一員として将来の地域を担っていく覚悟と努力が、やがて実を結ぶことになります。そして同僚から「漁師」と呼ばれる組合員資格を獲得することになります。

あなたが求めた「定年は自分が決める」漁師になり、「自分の努力次第が生活の全てになる人生」が拓^{ひら}けてくるのです。サラリーマン生活では味わい得ない「生きがい」のある充実した人生を獲得してください。応援します。



初歩的な手業を身につけよう！

受け入れる漁師が^{こま}一番困るのは、漁師になりたいあなたがロープや道具の扱いや、網の手入れなどの初歩的な知識や^{わざ}業を知らないことです。

出漁準備を急いでいる時や、漁場で操業中に作業の手を止めて教えることは至難なことです。「解らないから怒られる」、「怒られるから萎縮^{しよく}してしまう」の繰り返しとなり、教える方も教えられる方もフラストレーションがたまっていけます。

漁師になろうとする入口で挫折^{さつちやく}しあきらめた話や、漁師からは「適性に欠ける」と評価された話を何度も耳にしています。

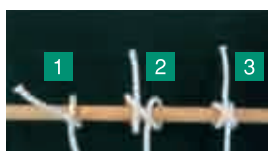
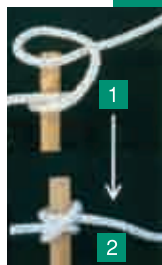
撚り方

ロープの撚れる（ねじれる）方向は右側（時計回り）と、左側（反時計回り）があり、右回りを右撚り（S撚り）、左回りを左撚り（Z撚り）といいます。簡単に見分ける方法は、下の写真のようにロープを握って、撚りが親指の方向と同じになった手で見分けます。



まき結び（かみくぐし）

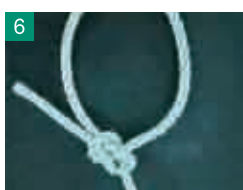
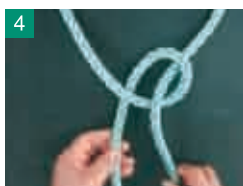
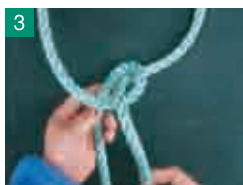
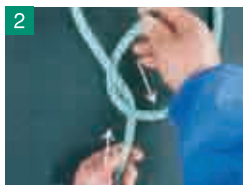
簡単に結べて、ほどけにくい結びです。しかし、引っ張る力が強いと締まりすぎ、ほどけなくなるので、状況を考えて使いましょう。



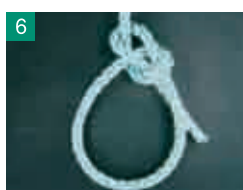
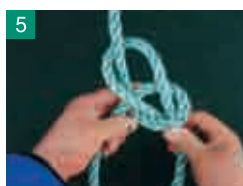
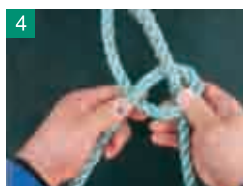
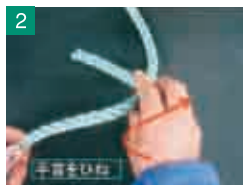
もやい結び（西洋結び）

引っ張る力で結び目がしまるので、ほどけにくい結びです。漁業ではいろいろな場面によく使われるので、完璧にマスターしましょう。

もやい結び（外もやい）



もやい結び（内もやい）



漁師の道を目指す諸君！

あなたが本当に漁師になりたいのなら、いま志を抱いているこの時に、せめてロープワークの初歩的なものを覚えていただきたい。そう願ってテキストとして掲載しました。ロープはナイロン製でも麻製でも結構です。扱いやすいセミリから十ミリ程度の太さのものを二メートル程度用意し、手順に従ってテキスト無しでも手が自由に動き、形を整えることができるよう練習してください。頭ではなく手が自由に動かなければ仕事に間に合いません。毎日の繰り返し練習が自分を支えてくれます。

ひと結び・ふた結び

簡単に結べますが、一時的に結ぶ時に用いるもので、ほどけやすい。ため他の結びと併用して使うことが多いです。

ひと結び

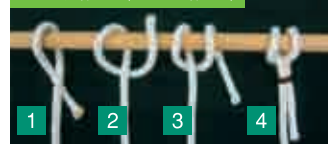
ふた結び



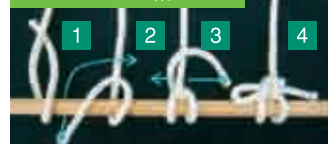
ほわす結び (かえし結び) フェンダー結び

きつちり締めますが、ほどきやすいため、いろいろな場面で使います。なかでも、垂れ綱を船の舷に結ぶ時などは、最後を片引き解きやひと結びにして使用します。

ほわす結び (かえし結び)



フェンダー結び

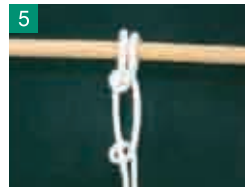
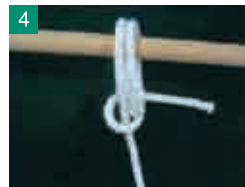
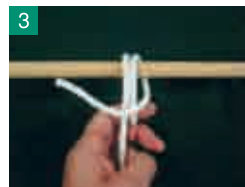
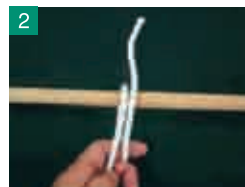
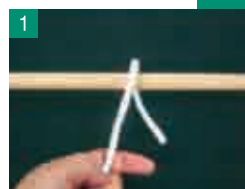


八の字結び



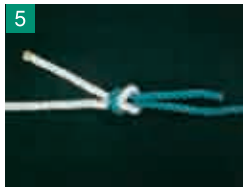
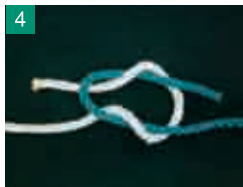
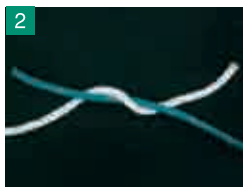
錨結び

錨 (アンカー) のリングにアンカーロープを結ぶときに使用します。



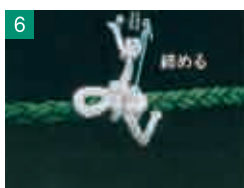
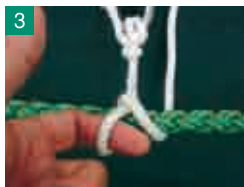
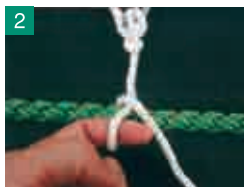
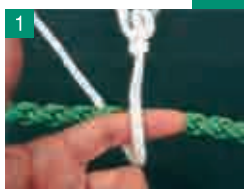
本結び

結びの、基本中の基本です。日常でも使うので必ず覚えましょう。結び目が逆になると、たて結びになり、ほどけやすくなるので注意しましょう。



てぼ結び

養殖施設の幹綱に、籠などのロープを結びつける時によく使います。自重で締まるので、横ずれに強くなります。



初歩的な手業を身につけよう!

バーズ・ヒッチ

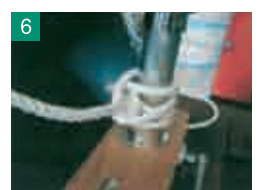
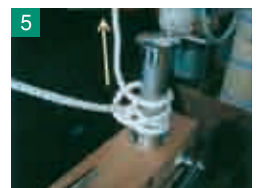
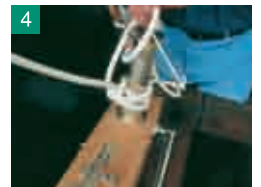
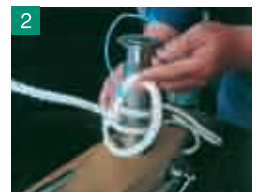
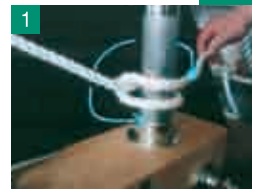
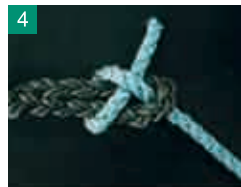
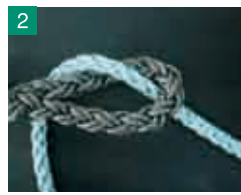
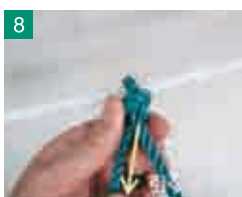
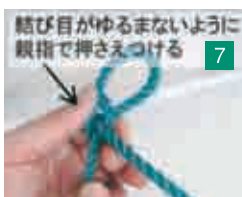
船に係留する時に用います。漁業では必ず使うので、完璧に覚えましょう。

ひとえつなぎ・ふたえつなぎ

主に、輪にロープを縛る時に用いるもので、ボンデン竿にセナワやアンカーロープを縛る時に、もやい結びと併用します。

いぼ結び (垣根結び)

ほどけにくいので、よく使う結びの一つです。完璧に覚えましょう。



「北海道で漁師になろう!」サイト

<http://h-suisankai.or.jp/enter.html>



北海道漁業就業支援センター

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目
北海道水産ビル 社団法人 北海道水産会内
TEL:011-271-5051 FAX: 011-271-5053
e-mailアドレス fish10@h-suisankai.or.jp



<http://h-suisankai.or.jp/mobile>